

川崎市立川崎病院（川崎市川崎区）

西本周平

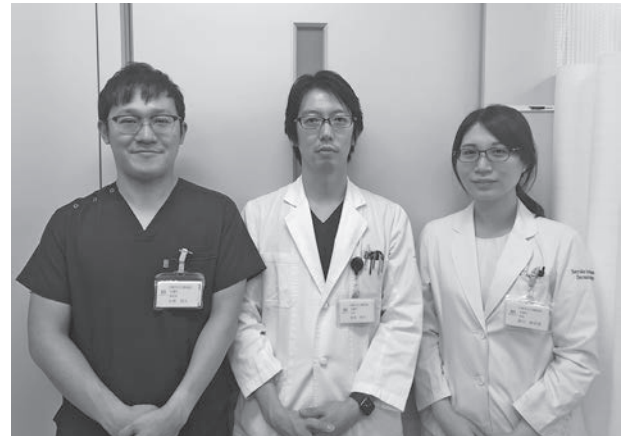
川崎市立川崎病院は川崎駅東口から徒歩約15分の位置にある急性期の総合病院で病床数は713床（一般床663床、精神38床、感染12床）の病院です。診療科は概ね各科揃っており、3次救急の救急救命センターや感染症指定病院で感染症病棟のほか、精神科閉鎖病棟まであります。

沿革については昭和2年に明治38年設立の伝染病組合病院を川崎市立病院と改称したことより始まり、昭和20年に総合病院となりました。皮膚科がいつからあるのかなど昔のことについてはよくわかりませんが、私が知る限り長年にわたり先代の宮川俊一先生が部長を務められ当地の皮膚科診療を支えられてきました。宮川先生の2020年3月末の定年により、後任に西本が赴任して現在に至ります。

皮膚科は以前から医師3人体制で診療を行っており、外来は午前の2診（初診+再診）体制に2人と病棟処置番1人に分かれて診療を行い、午後には褥瘡回診や手術・生検、特殊外来などを行っています。外来患者数は代替わり前の令和元年度は60人強/日でしたが、コロナ禍もあって代替わり後の令和2年度はおおよそ50人弱/日にまで減ってきて、ややスリムになりました。

新たに始めた試みは、午後に専門外来として皮膚腫瘍外来・乾癬外来・アトピー外来を設置し、完全予約制で30分1枠の初診用の予約枠を作りました。皮膚腫瘍の患者さんについてはその場でエコーや生検を行える体制をとっており、迅速な診断や治療方針の決定から早期に治療へと移れるようにしています。

また、乾癬やアトピーの患者さんは、初診の段階でしっかり話を聞き・治療方法を提示して、治療方針を相談する時間を取れるようにすることで、患者さんにあった治療方法を選べるようにしております。



筆者（中央）

慌ただしい午前の初診外来とは別にしっかり時間をとった枠を作って患者さんを交通整理することで、より専門性を発揮し、患者さんにメリットがあるような診療になるように心がけています。

次に入院診療ですが、皮膚科の病床数は7～8床程度の設定となっております。しかしこれは目安に過ぎず病床が空いていればどんどん入院できるシステムとなっております。ここ最近ではコロナ対応のために病床の一部をコロナ用にして、その対応の人手の捻出のために病棟を閉じたりした影響もあり、病床は概ね混雑しがちになっています。昨年度の1日平均入院患者数は序盤の緊急事態宣言の影響もあり6.3人/日とやや少なめでした。しかし、蜂窩織炎や带状疱疹だけでなく、緊急手術を要するような壊死性筋膜炎やガス壊疽、悪性腫瘍の手術や化学療法、植皮手術を要するような熱傷、高用量のステロイドを要する自己免疫水疱症や重症薬疹などにも対応してきたので、かなり濃い診療内容になっていたかと思えます。

手術については精力的に取り組んでおり、水曜午後に全身麻酔可能枠として中央手術室が使用可能になっていますが、熱傷の植皮や壊死性筋膜炎のデブ

リードマンなど比較的急に発生する手術は他の曜日の午後に臨時で入れさせてもらってこなしています。令和2年度は悪性腫瘍の手術が47件、植皮や皮弁の手術が25件あり、そのうち全身麻酔の手術が20件程度と大きめの手術をそれなりにこなしてきました。

また、悪性腫瘍に関しては化学療法にも取り組んでおり、赴任してからの1年強の間に悪性黒色腫、血管肉腫、皮膚T細胞リンパ腫、有棘細胞癌、乳房外パジェット癌などへの化学療法もレジメンを整備して実施してきました。化学療法は頻回な通院や副

作用出現時の対応を要するため、以前に郭清手術のために大学病院へ紹介された患者さんの再発時の治療で、自宅から近い当院で化学療法を行うといった逆紹介のケースも増えてきております。

コロナ禍の中で代替わりをして、ようやく1年と少しが経過して、当院もだいぶ落ち着いてきました。今後も地域の基幹病院として病診連携をしながら、重症患者について自前でしっかり対応できるように心がけていきたいと思います。

横浜市立市民病院（横浜市神奈川区）

蒲原 毅

当院は2020年5月1日に保土ヶ谷区の旧病院から神奈川区の新病院に移転しました。旧病院からはバス停2つ分横浜駅に近づきましたので、横浜駅からのアクセスが良くなりました。神奈川区の端に位置しており保土ヶ谷区、西区に隣接しているため旧病院のときに連携していた近隣の医療機関と変わらずに連携できる環境にあります。病院として「安心とつながりの拠点」を目指して、高度急性期医療の充実・強化を図っています。特に地域がん診療連携拠点病院としてがん診療、県内で唯一の第一種感染症指定医療機関として感染症診療に力を入れています。

現在、皮膚科は常勤医4名で診療を行っています。重症・難治性のアトピー性皮膚炎／蕁麻疹／乾癬、スティーヴンス・ジョンソン症候群／中毒性表皮壊



スタッフと（2021年）

死症／薬剤性過敏症症候群などの重症薬疹、重症・難治性の天疱瘡／水疱性類天疱瘡、難治性の皮膚潰瘍など難治性の皮膚疾患を幅広く積極的に受け入れています。更に皮膚悪性腫瘍など皮膚腫瘍についても積極的に受け入れて診断、手術など治療を行っています。特に乾癬では、患者ごとの悪化要因に基づいたきめ細かな生活指導を行いつつ内服療法、光線療法、生物学的製剤による治療を選択して最善の治療を目指しています。今後、連携パスを作成して、生物学的製剤導入後、症状が安定してからは近隣の医療機関で治療が円滑に継続できるようにしたいと考えています。当院では、地域医療機関の先生方から当日受診が必要な緊急・救急の患者さんをご紹介いただく際にご利用いただける24時間専用電話「地



横浜市立市民病院 前景

域救急ホットライン」を設置しています。皮膚科でもできる限り急患の対応をしております。診断、治療でお困りの際は、気軽にご相談ください。

最後に私事で恐縮ではありますが、このたび、神

奈川県皮膚科医会の常任幹事として庶務係を担当させて頂くこととなりました。いろいろとお世話になることも多いかと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

横浜市立大学附属 市民総合医療センター（横浜市南区）

池田信昭

横浜市立大学附属市民総合医療センター（通称：市大センター病院）は神奈川県横浜市南区浦舟町、すぐ横を首都高速狩場線が通り、大岡川の支流である中村川に面した場所にあります。最寄り駅は市営地下鉄ブルーラインの阪東橋駅で、病院へは徒歩約5分です。近くには桂歌丸さんの地元としても有名な横浜橋通商店街があり、飲食店が多い伊勢佐木町も当院から歩いて行くことができます。みなとみらいのような垢抜けた感じではない下町の雰囲気好きな方にとっては、かなり恵まれた立地なのではないでしょうか。

病床数は726床（2020年）で、特徴としては本館とは別に救急棟が併設されていることでしょうか。それだけに救急医療については非常に力を入れております。また従来の専門科の枠を越えた疾患別センター制を導入しており、より高度な医療を提供しています。

病院の歴史としては1991年、元々この地にあった医学部と付属病院が金沢区福浦へ移転するに伴い「横浜市立大学医学部附属浦舟病院」と改称いたしました。1999年に新病院棟（現：本館）が竣工し、翌年「横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター」と改称、さらに2005年、公立大学法人化に伴い「横浜市立大学附属市民総合医療センター」と改称し現在に至ります。このため昔から通院されている患者様の中には今でも「浦舟病院」と呼んでいる方がいらっしゃいます。将来的に医学部と附属2病院を集約する再整備構想があるようですが、果たしていつ実現するのでしょうか。

当院が現在の建物になってからは池澤善郎先生、



皮膚科スタッフ

相原道子先生、山川有子先生、蒲原毅先生が皮膚科を率い、特にアレルギーや乾癬の分野で大きな功績を残されました。蒲原先生の異動に伴い、2020年4月より私が部長を引き継がせて頂いております。現在は常勤医5名と非常勤診療医で診療を行っており、感染症・炎症性疾患・アレルギー疾患・自己免疫疾患・悪性腫瘍・難治性皮膚潰瘍など皮膚疾患全般にわたって積極的に診断・治療を行っております。専門外来としては、アトピー性皮膚炎／蕁麻疹外来、乾癬外来、水疱症／膠原病外来、腫瘍外来があります。

以下、簡単ではございますが各疾患についてご説明いたします。アトピー性皮膚炎の標準的治療でなかなか治療効果が得られない方には、光線療法、2週間程度の教育入院、各種免疫抑制剤や生物学的製剤の投与などを行っております。食物アレルギーや

アナフィラキシーについては血清中の抗原特異的抗体検査、プリックテストのほか、入院のうえ経口負荷テストを行うこともあります。乾癬に対しては光線療法やエトレチナート・免疫抑制剤などの内服療法、生物学的製剤や顆粒球吸着除去療法まで個々の症状に合わせた治療法を選択しております。天疱瘡、水疱性類天疱瘡など自己免疫水疱症にはステロイドの全身投与に加え、難治な方に対して血漿交換療法、免疫グロブリン大量静注療法など種々の治療を組み合わせしております。中毒性表皮壊死症、Stevens-Johnson症候群、薬剤性過敏症症候群など重症薬疹も積極的に診療しています。ステロイドの全身投与に加え、難治例には血漿交換療法、免疫グロブリン大量静注療法を行い良好な治療効果が得られています。有棘細胞癌・基底細胞癌などの固形癌から悪性黒色腫・乳房外パジェット病・さらに菌状息肉症をはじめとする皮膚原発性リンパ腫まで、診断・治療

を積極的に行っています。リンパ節郭清、化学療法が必要な場合は、横浜市立大学附属病院皮膚科と連携して治療に当たります。なお、疣贅に対するレーザー治療や陥入爪のワイヤー矯正などの自費診療は行っていません。

当科は完全紹介制をとっており、月曜日から木曜日まで毎日、新患の受け付けを行っておりますので、「なかなか治らない」「診断がはっきりしない」などお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、是非お気軽にご紹介ください。また隔月で症例検討会（横浜皮膚疾患研究会）を行っておりますので、興味がありましたらご参加頂ければと存じます。

これまでと同様、横浜南部医療圏だけでなく、より広域の医療機関との連携を通じ、地域医療に貢献できればと思っております。今後ともよろしく願います。

人々の生命を守り、健康を育むために。

医療用医薬品メーカーとして、着実な歩みを続けています。



藤永製薬株式会社

〒103-0027

東京都中央区日本橋 2-14-1 フロントプレイス日本橋 9階

電話 03(4533)1100